

海上の森の自然ノート

海上の森の鳥博士

古澤 穎一

No.2

野鳥

春になると草木が芽吹き、虫も鳥も活動が活発になる。5月になると野鳥の子育てが始まり、海上の森は賑やかになる。鳥たちの良い歌声が聞こえてくる。



1. **オオルリ**は夏鳥として4月末、雄が先に来て溪流沿いの森で激的な陣取り歌合戦を展開。繁殖圏が定まった頃、雌は海上の森にやって来る。日本の三鳴鳥として色も声も素晴らしいものである。
2. **キビタキ**も夏鳥で、5月始めにやって来る声の綺麗な歌い手である。鳴声で鳥の存在は判るが特に広葉樹林を好み茂みの多い場所に居るため、胸の鮮やかなオレンジ色は見つけ難いものである。
3. **サンショウクイ**、ピリピリと鳴きながら飛ぶので、“山椒は小粒でピリリと辛い”から名が付けられた。高い木の高い場所に止まることが多く、低木に止まるのは巣材集めや採食のときくらいだ。



4. **シジュウカラ**はスズメ大の鳥で胸に黒い縦線ネクタイが特徴である。いつでも海上の森に居て虫類を捕食しツツチ、ツピーツピーと繰り返して鳴く。秋冬には木の多い住宅地でも普通に見られる。
5. **センダイムシクイ**は夏鳥として海上の森にやって来る。チョチョピーと囀るが色々な声で鳴く、聞きなしは「鶴千代君」「焼酎一杯ぐいー」等と覚え易いが、広葉樹林を好み姿はなかなか見難い。
6. **メジロ**は馴染みの鳥で全国に広く分布している。目の周りの白いアイリングが特徴で古くから飼われ、愛らしい姿や美声が楽しまれていた。海上の森では繁殖し、クモや虫類を捕食している。

